

(別紙4) (西暦) **2021** 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0873800676		
法人名	株式会社 メディカルアシスト		
事業所名	グループホーム つくし 曙東ユニット		
所在地	茨城県稲敷郡阿見町曙176-3		
自己評価作成日	2021年2月20日	評価結果市町村受理日	2021年6月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhou_detail_022_kani=true&Jigvsvocd=0873800676-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人認知症ケア研究所		
所在地	茨城県水戸市酒門町字千束4637-2		
訪問調査日	2021年4月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

令和2年初頭より、コロナ禍の影響で利用者の外出や家族との面会等の制限が余儀なくされており、コロナ禍の状況をみながら、利用者一人一人としての関わりを大切にすることを守り、マスク着用、外出後の手洗い、うがい、手指の消毒等基本的な事をしっかり守り、季節に合った催し物やレクリエーション、外の風にあたる散歩や外出など生活する中で四季の移り変わりを感じることでできる機会を提供していきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍で様々なことが制限されている中、利用者が自分の居場所・やりがいを発揮できる環境を作り、統一したケアの提供に取り組んでいる。見当識に配慮し、ホーム内は季節を感じる飾りつけがされていた。換気の為に解放された窓からは優しい日差しや風が入り、五感の刺激も受けていた。職員だけでなく、利用者もマスク着用し、万が一、感染者や濃厚接触者がした場合の感染対策マニュアルが作成されている他、医師指導の下、必要備品・居室隔離等のシミュレーションを実施している。コロナウイルスを持ち込まない為に、普段の生活から気を付け対策している。***新型コロナウイルス感染予防の観点から、訪問調査は通常より時間を短縮し、簡潔に実施。**

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関や休憩室、事務所に会社の基本理念、ホームの理念を掲げるとともに、毎朝行われる申し送りの際に唱和し、日々の業務に取り組んでいる。ホームの理念は職員でカンファレンスをして作った。	職員で考えた事業所の理念と法人理念を玄関・事務所・休憩室の視界に入りやすい場所に掲示し、ユニフォームにもプリントして意識付けを図っている。毎朝の申し送り時に唱和し、再確認をする。職員はコミュニケーションを大切にしている。コロナウイルスを持ち込まないよう、普段から人混みを避けるよう配慮している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入会させて頂いているが、各種行事や町主催のボランティア活動が中止になってしまい、参加できなかったが、コロナ禍による様々な制限が解除になった際には、安全も考慮しながらボランティア活動やお祭りに参加したいと考えている。	自治会に加入して様々なイベントに参加していたが、コロナ禍の為、現在はすべて中止となっている。コロナの制限が緩和された場合は、安全策をとりながら参加したいと考えている。利用者はボランティア交流の再開を待ち望んでいる。花や野菜の提供を受けることがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の影響で地区の回覧も廻せず、広報誌の回覧が出来なかったが、これまでのお付き合いがあったお陰で窓の外からご挨拶を頂いたりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	阿見町高齢福祉課と話し合っって推進会議は行わず、全て報告書作成して推進委員各位に利用者の状況、ホームで気を付けている事等を定期的にお伝えしている。	コロナ禍の為、会議は開催せず、利用者の状況・事業予定等を委員に書面で報告している。家族からはワクチンや利用者の状況について問い合わせがあり、返答している。議事録をファミリーレターに同封して発送。職員には回覧で共有している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	直接お伺いするのは限定的にして、電話でのやり取りで相談している。	現在は電話でのやりとりが多くなっているが、関係担当課とは良好な協力関係が築けている。ケアマネ会に参加。グループホーム連絡協議会はSNSで情報交換をしている。認知症サポーター養成講座・初期集中支援チームの講師として参加した。こども110番は設置済み。専門学校の実習生や中学生の体験学習、小学生の町探検も受け入れも中止している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	人数を限定して定期的カンファレンスを行い議事録を作成、各職員に確認してもらい意見がある場合には、管理者やリーダーに伝え次のカンファレンスで検討している。	拘束廃止対策委員会を設置し、3ヶ月ごとに人数を制限して勉強会を実施。議事録にまとめ、職員も確認(押印)している。意見や疑問点がある場合は管理者・リーダーに伝え、次のカンファレンスで検討している。玄関前は幹線道路で車の通行量が多く、安全上、玄関は施錠しているが、家族・消防署に説明して了解を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止のポスターを玄関に提示し、職員の意識と注意を高めるとともに、職員もホーム内カンファレンスに参加し虐待について考え、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対象となりそうな利用者が入居している時には行政担当者に相談し必要な支援を提供している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ前に、健康チェックをしていただいたうえで一度見学に来て頂き大枠を説明した後には契約を取り交わすようにしている。その他、契約書の合間あいまに疑問点がないかを確認しながら説明、契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の日頃の活動や会話の中で、困っていることや、やってみたいことがないか聞いたり、必要があれば家族に電話で希望等を伺い、日常のケアや活動の中に取り組んでいる。	前回の評価をうけ、ファミリーレターの中に『サービスに対する希望・疑問・感想』の無記名アンケートを実同封したが、返事は皆無であった。家族の意見は電話や面会時に頂けていると思うが、今後もアンケートを続け、コロナ収束後には家族会を実施するとの事。2ヶ月毎にファミリーレターに写真を同封し、近況を伝えている。	重要事項説明書の中の苦情担当窓口に1人の名前が記載されているが、可能であれば、苦情担当窓口と解決責任者、それぞれに担当者名を記載し、苦情に対する管理者の位置付けがわかりやすくなることを期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務の合間や休憩時間、カンファレンスの時などに意見や提案を聞くようにしている。	運営に関する報告は事前に受けている。ケア提供時に気づいた意見や提案はその都度検討し反映させている。役職員は職員の様子の変化を察して指導や助言を行い、ストレスや不満がたまらないよう配慮している。管理者は職員との対話を大切に、先ず話を聞いてから、管理者の考えを伝えている。管理者・リーダー・職員の関係は良好との事。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の各種届出書(勤務変更、残業等)を確認する他、通常業務以外での実績などについては、必要な指導、助言を行い向上心を持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	役職者により職員への指導、助言を日常的に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の影響で制限されているが、SNSでの交流を継続する事で情報を共有して、サービスの質の向上を心掛けている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に家族から利用者の現状、情報、何が悩みか等を聞き出し、実際のサービス開始時にそれらを活かせるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みの際には家族の健康チェックをしていただいたうえでホーム見学を兼ね来て頂き、家族の現状、何が悩みか等を聞きだし、協力できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所相談を受けた際、グループホーム以外の介護保険サービスも紹介、説明し、本人及び家族が必要とするサービスが利用できるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分で出来ることは、声かけしなるべく自力で行えるような支援をしている。また、本人の趣味等を活かし、職員も一緒に活動するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	側近の利用者の様子が分かる写真を掲載したお手紙を定期的に送付、必要に応じて電話をかけたり、問い合わせがあれば対応した職員や管理者が応じている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と電話で会話して頂いたり、手紙のやり取りをして頂いている。	電話の取次ぎや手紙のやり取りで、遠方の方や大切にしてきた馴染みの人との関係継続に努めている。自分の携帯電話で自由に馴染みの人との会話を楽しむ利用者もいる。利用者同士の関係や相性を把握し、快適な生活支援に繋げている。乳酸飲料やスポーツ飲料、牛乳や新聞購読を続けている利用者がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	普段の生活から利用者同士の関係や相性を把握しながら、座席の調整やグループ分けを行い孤立することなく快適な生活が継続できるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時及び契約終了後も利用者及び家族の要望がある際には必要な相談等に応じるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話の中や活動の中で、本人がやりたいこと、行きたい所、好きな物、嫌いな物などを聞き出し、希望、意向の把握に努めている。	利用者の思いは日々の会話から吸い上げ、全職員で共有し支援に繋げている。趣味や家事(塗り絵・編み物・読書・歌・ギター鑑賞・種まき・調理・掃除・洗濯干し・洗濯たたみ等)をやりがいに繋げている。困難な場合は問いかけを工夫したり、表情・様子から利用者本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のサービス利用時の様子などを家族や他事業所からの情報収集は行っている。入居時にも生活歴や、趣味、施行調査なども行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りやカンファレンスの時に利用者の状態報告を行うとともに、連携医療機関へも報告、相談し対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者それぞれに担当スタッフを割り当て、定期的あるいは状態変化の際にはアセスメントを実施し、それを元にケアカンファレンスを開催している。 状態変化に合わせて随時プラン見直しを検討し、本人、家族とも相談して介護計画を作成している。	担当職員が定期的や状態変化が見られた時にアセスメントを実施する。ケアカンファレンスで利用者・家族とニーズとケアのあり方について話し合い、プランを作成している。作成後は家族に説明し同意を得ている。3ヶ月毎のモニタリング・状態変化に合わせ、現状に即したプランを作成している。週間サービス・日課計画表を基に、目標達成に向けた支援を行う。ケース記録は一日の流れに沿ってチェックと特記事項の記入があり、わかりやすい。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録への記入のほか、申し送りやカンファレンスを活用しながら情報を共有し日々のケアにあたっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ホームで対応できることについては、個別の要望に応えるように支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の影響で地区の行事が中止になり、定期的に招へいしていたボランティアも全て中止して、利用者の健康維持を優先した。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に受診希望の医療機関を確認し、適切な医療を受けられるように支援している。	連携医療機関より月1回の往診と週2回の訪看で体調管理に努めている。発熱した場合はSNSで連絡し、すぐに検査が可能な体制となっている。かかりつけ医受診は基本、家族付き添いとなっており、受診後は報告を受け、ケース記録に青ペンで残している。往診(居宅療養管理指導書)・訪看(看護記録)の記録と家族への報告も確認できた。むくみについては足の運動・マッサージ・服薬で改善し、ファミリーレターで伝えた。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携医療機関の看護師に相談しながら日常の健康管理をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	安否確認を踏まえた面会を行うほか、家族を通して入院中の状態を確認したり、必要に応じ家族了承の下、医療機関関係者と退院に向けての話し合いを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態変化や重度化しそうな場合は連携医療機関との話し合いの場を設け、本人、家族の意向に沿った対応を検討している。 また状態変化の都度にカンファレンスを行い、現状に合わせたケアを提供できるよう努めている。	契約時に重度化対応・終末期ケア対応指針について説明し同意書を取り交わしている。重度化となる前に、医師が今後の経過等の説明を家族に行い、利用者・家族の意向に沿い、利用者が望む最後の場所として全職員で支援に取り組んでいる。最近は病院希望が多くなった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内研修で“利用者の急変時の対応、事件事例検討会”と題して勉強会を行い、周知徹底に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練(火災想定・地震想定・夜間想定)を行なうほか、新入職員には消火器、火災報知機棟の使用方法を説明している。また、運営推進会議の際に非常時の協力を呼びかけている。	年2回の避難訓練を実施し、昼夜を問わず利用者が安全に避難できる方法を全職員が身につけている。地域住民に協力依頼内容の構築は出来ている。備蓄品・緊急持ち出し用品は整備している。消防署からは避難確認方法・廊下の出口に物を置かないようにとの指導があった。避難後は部屋番号の札を裏返す。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けに関しては利用者の自尊心を損ねぬよう注意して行い、一人ひとりの性格や生活習慣を尊重した対応を心掛けている。	日々の会話は馴れ馴れしくならないよう気をつけ、人格を尊重した声掛け・ケアを心がけている。調査日は利用者の行動に目を配り、笑顔で対応し、利用者が落ち着く場面が多々見られた。書類関係の保管場所・情報開示に向けた同意書を取り交わし、個人情報保護に努めている。一日の流れは概ね決まっているが、利用者のペースで過ごしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクリエーションやお茶の時間に希望や好みを聞きだすようにしている。買い物を頼まれたら、職員が買い物に行ってきた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活にメリハリをつけるために、ある程度の日課は職員が決め、入浴や食事準備、休息などの日常動作は本人のペースで過ごしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えや外出時などは服を自分で選んでもらうように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が全てを準備するのではなく、個々の状態に合わせ担当を決めたり、出来るところはコミュニケーションを図りながら職員と一緒に行うようにしている。	利用者の希望を聞き、献立を立てて提供している。利用者の力量に応じ、下準備・配・下膳・食器拭き等を行っている。今後も釜めし・テイクアウト・ハンバーガー・チキンバーガー・リクエスト食と食の楽しみの継続に努めたい。おやつ(チーズケーキ・どら焼き・スイートポテト)は格別においしいとの事。食事介助を行いながら、他の利用者の食欲・嚥下等に注意している。食後には歯磨きやうがいで口腔ケアを実施している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューや食材は食事摂取量を毎食チェックするとともに、水分摂取量の少ない利用者に関しては、水分摂取表で一日の摂取量を確認し、連携医療機関に報告し適切な支援を行なっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き、うがいをを行い口腔内の状態把握に努めている。腫れや虫歯がある際には連携医療機関に報告し適切な支援を行なっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時には排泄チェック表に記入する事で一人ひとりの排泄パターンを把握し、気持ちよく過ごせるよう配慮している。	排泄パターン・チェック表・表情・様子からトイレに誘導しトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。夜間おむつ対応の利用者も昼間はリハパンで対応。おむつからリハパン・リハパンから布パンへと改善した利用者がある。介助する女性職員を気遣って、握力を鍛えて介助が軽減した利用者がある。運動・体操・食事調整・水分等で便秘予防に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘症の方については、連携医療機関へ連絡、相談をして適切な支援を行っている。毎日運動の時間を設けるほか、個別の体操や食事の調整などを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	健康状態に注意しながら、本人の希望や状態に合わせて午前・午後入浴を行っている。	週3回の入浴支援であるが、汚染・希望があった場合は柔軟に対応している。季節のゆず湯・しょうぶ湯にこだわりのある利用者がいる。皮膚感染予防対策が実施されている。着替えの準備は職員と一緒にしている。同性介助が基本。普段聞けない話が出てくることもある、貴重な時間となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転を防止しながら日中の活動を多く持ち、適度な疲労と適切な休息が取れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が処方された際には処方箋を全職員が確認するほか、副作用等については連携医療機関に確認、相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時に家族から生活歴や趣味等を聞きだし、それを参考にして日々の余暇活動に反映させている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の最中という事で自粛をお願いしている。コロナ禍が終息したら、地域の行事やボランティア、外食の支援を再開したいと考えている。	現在はコロナ禍で外出支援は難しいが、受診後に花見をしながら戻ってきた利用者がいる。今後はドライブを兼ねて、車中から季節の移ろいを感じてもらいたいと思っている。読書が好きな利用者は再び図書館に行ける日を楽しみにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は基本的にホーム側で行なっている。必要な物がある時には職員が支払いを行っている。 出納帳は定期的に本人及び家族へ報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望があれば自由に掛けてもらっている。自身で連絡して頂くか、職員が代わりに連絡するようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム周りには季節の花などを植え、館内には利用者の普段の生活風景写真や季節に見合った装飾を施すようにしている。	玄関周りには季節の花を飾り、訪問者を暖かく迎え入れる配慮があった。館内は生活風景の写真や季節の装飾品が置かれ、見当識を意識した工夫が見られた。換気を徹底し、感染防止に配慮している。トイレ・風呂場の表示はわかりやすい。運動する利用者には目標を掲示板に掲示し、やりがいに繋げている。事業所で飼う猫が癒しとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールに長椅子を設置したりテラスや庭にデッキチェアを設置し、気の合う仲間と過ごせる場所の確保をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた物をなるべく持ち込んでもらい、自宅にいた時と同じような生活が送れるよう配慮している。また、本人の状態や好みに応じてベット等の使用も検討するようにしている。	居室入り口には名前・写真・部屋番号を明示し、混乱防止に努めている。タンス・テーブル・椅子・テレビ・冷蔵庫・パイプハンガー・衣装ケース等を安全面に配慮し設置している。家族の写真・遺影・ぬいぐるみ・カレンダー・小物・愛読書等を置き、居心地よく過ごせる居室となっている。衣替え・掃除は主に担当職員が行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が分かりやすいように、居室に利用者の写真を貼ったり、入り口に番号(番地)をつけたりしている。		

(別紙4(2))

事業所名 : グループホームつくし

目標達成計画

作成年月日 : 2021年6月8日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	重要事項説明書の中の苦情担当窓口に一人の名前が記載されているが、可能であれば、苦情担当窓口と解決責任者、それぞれに担当者名を記載し、苦情に対する管理者の位置付けがわかりやすくなることを期待する。	重要事項説明書の苦情担当窓口(苦情申し立て窓口)の欄を見直し、苦情担当、解決責任者と明記し、管理者二名の名前を記載する事により、利用者のご家族がいつでも相談出来るような体制を整える。	書式を苦情申し立て窓口から、苦情担当、解決責任者と明記、管理者二名の名前を記載する。ファミリーレターを通じてご家族にもその旨を伝える。	1ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。